

令和7年度 第2回 アール医療専門職大学
教育課程連携協議会 議事録

開催日：令和8年3月11日（水）13：30～14：45

開催場所：アール医療専門職大学 体育館・講義棟 1階

出席者：浅川 育世(茨城県理学療法士会)

大場 耕一（茨城県作業療法士会）

宮山 敬子(茨城県教育研修センター)

浅野 信一（つくばセントラル病院）

佐藤 弘行（茨城県リハビリテーション専門職協会）

新田 収（アール医療専門職大学 リハビリテーション学部長）

縄井 清志（アール医療専門職大学 理学療法学科長）

中村 茂美(アール医療専門職大学 作業療法学科長)

欠席者：直井 洋明（土浦市こども未来部こども包括支援課）

大野 崇（行方市介護福祉部介護福祉課）

飯塚 拓也（茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会）

山倉 敏之（筑波記念病院）

中 徹（アール医療専門職大学 学長）

【記録：事務局】

1. 議題

- (1) 完成年度後の学内教員と非常勤講師との科目担当調整について
- (2) 臨床実習の進捗状況～早期体験実習などについて
- (3) 令和7年度後期における選択科目履修状況および現在の GPA 状況について
- (4) その他質疑応答

2. 配布資料

- ・令和7年度 第2回アール医療専門職大学教育課程連携協議会 次第
- ・教育課程連携協議会について

- ・教育課程連携協議会 構成員一覧
- ・選択科目履修状況・後期 GPA について
- ・2025 年度リハビリテーション学部卒業生就職状況

3. 議事

会議の冒頭、新田学部長より挨拶があった。

その後、新田学部長進行のもと、構成員が自己紹介を行った。

(1) 完成年度後の学内教員と非常勤講師との科目担当調整について

基幹教員制度を導入したい。現在は常勤の教員を「専任教員」としているが、明確な規定がない。そのため、明確な規定を作成し、本学で PT・OT の養成に関わる教員を「基幹教員」としたい。

今年度までは、文科省の基準に適応することに焦点を当てていたため、教員間で受け持つ科目数や業務量に差があった。その点を非常勤講師に依頼していた科目を常勤教員が担当することで均等にしていく。

カリキュラム改訂は1年後を目指しているが、来年度より常勤の先生が担当する科目を増やす方針である。

【大場様】

非常勤の先生は0名にするのか。

【回答（新田）】

来年度はカリキュラムが変わらないため、0名とはならない。

カリキュラム改訂後は、可能な限り常勤で対応する予定である。

【大場様】

先生方の負担が増えてしまうのではないか。

【回答】

負担が増える先生も出てくる。担当科目が増える先生は、授業内でゲスト講師を呼び、授業数を減らすなどの負担軽減措置を行う。

【浅川様】

科目担当者が変わること、教える内容が変わってしまうが、留年や再履修者への対応は考えているか。

【回答】

新カリキュラムも、シラバスは現在と同内容にする予定である。

ただし、全く同内容での授業は不可能であるため、学生に頑張ってもらい必要がある。適切な配慮を行えるよう検討していく。

(2) 臨床実習の進捗状況～早期体験実習などについて

縄井学科長より、理学療法学科の実習についての報告がなされた。

- ・ 特別支援学校への早期体験実習について。インフルエンザにより実習に行けなかった学生は、アールプラスにて補講を実施し、全員合格となった。
- ・ いきいき健康教室について、本学体育館にて実施。3回実施し、参加者は113名。参加者のアンケートには「健康意識が高まった」との声もあった。
- ・ 各実習でのOSCEの状況、合格者の報告がなされた。

中村学科長より、作業療法学科の実習について報告がなされた

- ・ 実習先候補は十分に確保できている。
- ・ 特別支援学校への実習について、将来的に特別支援学校で勤務を希望する学生が多いため、フォローしていく。
- ・ 各市町村の介護予防教室への見学授業を実施した。この実習が、「高齢者健康づくり政策論」の授業での演習に生きていた。学生の将来につながる実習をして頂いている実感があつた。

【大場様】

実習が終わった学生から施設に対してどういう臨床を経験させて欲しかった、というような要望はあるか。

【回答】

施設側から学校へは、法制度を理解させたうえで実習に臨ませて欲しいというお願いをされた。

学生から施設へは特に要望は出ていない。

【浅野様】

実習を経て何を学んだのか、終了後の振り返りが大切になる。次に向けて何を学んでいくのか、実習の経験を生かしてその後の知識付けをしてもらう必要がある。

【回答】

実習後は、教員 1 人に対して 4-5 名のグループになり、発表を行っている。
実習後の振り返りを含めて実習を完結できるように丁寧にフォローしていく。

【佐藤様】

大学側として、実習施設（部署・指導者）に対しての評価は行っているのか。

【回答】

正式な評価は現時点で実施していない。実習が終了した時点で、ハラスメントがなかったのか確認を実施している。また、学生を育てるという視点で指導していただいたかを個人的に判断はしている。

実習指導者への研修制度もあるため、どの施設も同程度の内容で実習をしてくださっている。ゆくゆくは学生を育てていただくのに向いているというような施設も出てくるのではないかとと思うので、施設への評価についても検討が必要である。

【宮山様】

特別支援学校においての実習受け入れは、支援学校の教員と実習生がお互いを刺激しあった win-win な関係であると感じている。

また、実習は適性を見極めるという意味でも貴重な機会であるが、学内で自己評価システムは導入されているのか。

また、大学が PT・OT を育成することだけを目的にするのではなく、知識をつけた状態で、別の道を進むことを決めた学生に対しての支援もできると良いのではないか。

【回答】

現時点で自己評価システムは導入していないが、必要性を感じている。

学生の中には、心理的要因を抱えていることを理解した状態で入学し、実習などを通して成長し、社会にでるプレスタートとして4年間を過ごす学生もいる。宮山様のご指摘通り、PT・OT以外の職種を目指したい学生のキャリア支援も検討していきたい。

- (3) 令和7年度後期における選択科目履修状況および現在のGPA状況について
「選択科目履修状況・後期GPAについて」の資料について説明があった。
「スポーツ障害系理学療法学」の履修率が低い点について議論がなされた。
授業を通して、大学の個性が出るのも良いことではないかという意見があった。

【宮山様】

AIが進化してきている。学生はうまく活用できているのか。

【回答（中村）】

AIを利用するスキルは高くても、その根拠を検証するリテラシーが追いついていないのが現状である。このままだと、AIに振り回されてしまうのではないかという懸念点がある。

【浅野様】

AIを教科書の補完的役割として活用することで、学習の効率化を図ることができる。ただし、その前提として、習得した基礎知識に基づき、AIが出力する情報の正誤を主体的に判断する能力が不可欠である。

- (4) その他質疑応答

今年度卒業生の就職状況について、資料をもとに説明があった。

【中村】

OTの学生の動向として、病院（精神科含む）への就職が多数を占めている。セカンドキャリアで小児分野を見据える学生が一定数存在する。加えて、大卒資格を武器に一般就職へ挑戦する学生もあり、多角的な就職支援の枠組みを検討すべきである。

○新田学部長より、次回の教育課程連携協議会の開催について相談があった。

現在9月・3月に実施をしているが、時期は変更したほうが良いか。

→3月開催の場合、可能な限り卒業式の週は避ける。2月開催も良いのではないかという意見もあったが、成績が確定した後の開催のほうが有意義な意見交換ができるため、時期については要検討となった。

【佐藤様】

同窓会組織についての確認をしたい。

【中村】

専門の同窓会があるが、名前のみ残して閉めた。大学については、1期生卒業後の秋ごろの研修会において、2期生と合同での同窓会設立を検討中であるが、現代の学生には同窓会への意識が薄く、自発的な運営は期待できないのではないかと予想している。



以上